

※ 保存版「梅雨時の防具の手入れについて」(H15(2003)年7月83号会報の号外版を一部加筆)

この時季は、むし暑い日が続き、ちょっとしたことで汗をかきます。

特に剣道は厚い防具を着用し激しい動きをするため、多くの汗をかきそれが稽古着、袴はもちろんの事、防具もかなりの汗を含みます。(調査では約1リットルの汗=稽古着がしっかり濡れる状態のイメージ=をかくと言われています)そこで稽古後の防具等の手入れについてお話しします。

使ったままで防具袋に入れっぱなしの状態は、この時季は特にカビが発生しやすいので、いつも衛生的で気持ち良く使えるよう、また防具を長持ちさせるためにも実行してみてください。

1) 面

- ① 直接顔に密着するため、小手以上に汗がしみ込むので、防具袋に入れる前に乾いたタオル等で面の内側を押し込むように強くふき取る。(内側面金部分にも飛沫が付着しているのでここも!)
- ② 手指消毒用(エタノール)アルコールを面の内側(あご部分、頬部分)と外側の下部面金回りと突き垂部分(相手の飛沫が付着)にもスプレーする。



- ③ 面に付けているマウスガードは毎回外して洗剤で洗ってください。(時期無関係その都度洗浄)
- ④ 面ひもも面にあたる部分は結構汗を吸い込んでいます。面倒でも外して洗ってください。
- ⑤ よく晴れた日の風通しが良い場所で陰干しする。又は面にタオルを掛けて直接直射日光に当てる。この場合も面金を下にして面布団を大きく広げること。

☆「もっときれいにしたい!」

長い間使い続けると、汗がしみ込み面布団の外側に白い粉(汗に含まれている塩分)がふくようになります。そこでもっときれいにしたい時は以下のようにすると良いですよ。見違えるほどにきれいになります。重さも変わり軽くなります。それほど汗を吸い込んでいるのです。

- ① 面ひもは外し、面が入るタライに水をいっぱい入れ、面の後ろ側を下にして面金部分の近くまで水に浸す。時間は4時間から5時間くらいが良い。
- ② しばらくすると水が吸い込まれ、その後、汚れとともに茶色に濁った水がタライの底に沈殿します。(その色は汗と藍染めで薄茶色)
- ③ その後、水を入れ替え同様に1時間くらい再度浸す。
- ④ 仕上げは、水を掛けながら内側、外側を軽くブラッシングする。
- ⑤ 最後は面の後ろ側を下にして、陰干しにして自然に乾かす。

【注意】藍染めが落ちるので洗剤は使わないでください。また完全に乾くまで天気の良い日で5日ほどかかるので、防具を当分使用しない時期にすると良いと思います。

2) 小手

- ① 面同様かなりの汗がしみ込みます。乾いたタオル等で内側を押し込むように強くふき取る。
- ② アルコールスプレーの仕方と日光消毒の方法は面の場合と同じです。
- ③ 直射日光に当てると小手の皮が硬くなり、傷み易く成るので陰干ししてください。



3) 垂(名札=ネームは外す)

面、小手に比べ直接肌に着けないので、汗のしみ込みは多くありませんが、やはり手入れが必要です。内側にアルコールスプレーと日光消毒で十分です。

4) 防具袋と胴紐

防具袋は外で裏返してよく叩いて日光消毒。せっかく防具を手入れても袋が不潔なら無意味です。また防具袋の中に除湿材や除湿カップ等を入れて置くのも良いと思います。また胴紐も肩にあたる部分は結構汗を吸い込んでいます。面倒でも外して洗うことで長持ちします。

5) 竹刀と竹刀袋

保管状態が悪いと竹刀の柄と竹と竹が接する部分にカビが発生しますので注意してください。竹刀を竹刀袋に入れたままにしないで時折日干しも必要です。またカビを見たら、面倒でも一度ばらして、タオルで拭き取った後、日干しして下さい。またその原因が竹刀袋の中にもありますので、布製であれば洗濯。その他は乾いたタオルで中を拭き取り後、日干しが良いと思います。